

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立基里小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科「日本語」を中心として、校内研究を充実させ、児童が問いを立て、解決する場を設定するような授業改善を工夫することができた。次年度は、研究を継続すると共に学びのスタイルを他教科へも広げたい。</li> <li>・「教育相談週間」「なかよしアンケート」で児童の困り感を捉え、「なかよし宣言」「人権標語」など思いやりの心を育む取組を行うことで心の教育の充実を図ることができた。今後もみんなが気持ちよく過ごすことのできる学校作りに努める。</li> <li>・研究発表会を開催し、小中一貫教育の一層の充実を図ることができた。授業の相互参観や研究会参加など、小中学校の教職員が共に学ぶ場を設けると共に、「5・7交流」「6・8交流」「よろしく先輩」「文化発表会参観」など、児童生徒の交流活動も継続したい。</li> </ul>

2 学校教育目標	<p><b>「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成</b></p> <p>～ みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしよう ～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①児童の主体的な学びの実現と学力の向上</p> <p>②心の教育の充実による豊かな心の育成</p> <p>③小中一貫教育とコミュニティ・スクールの充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が問いを立て、解決することを通して、主体的・対話的に学ぶことを目指した授業力改善	○児童が問いを立て、解決する場を設定するような授業改善に取り組んでいる教員90%以上 ○自分で問いを立て、問いの解決を目指して学習に取り組むことができる児童70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科「日本語」を中心に、他教科においても問いを軸とした授業づくりの在り方を研究し、児童が主体的に学び、考える場を設定する。</li> <li>・発達段階に応じて、問いを意識させた学習づくりを行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員へのアンケート結果、「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善」に努めている」が100%となり、教科「日本語」を中心に、国語科や体育科など他教科でも問いを軸とした授業実践が広がってきていると考える。</li> <li>・学習アンケートで「問いを立てることができている」についてどの学年も90%以上の児童が「できている」と答えている。問いの解決に向けて学習に取り組む姿勢が醸成されている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが学習に意欲を持ち、関心を持てるよう、いろいろな方向・方法で取り組まれていることが分かった。</li> </ul>	A	
	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師90%以上 ○アンケートにおいて、「困ったことや悩みがあったときに話せる人がいる」と答えた児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。</li> <li>・何でも話せる人間関係づくりを、各学級でなかよし宣言を考えたり人権標語を作成したりすることで、人権について考える機会をもち、思いやりの心につなげる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育の観点から教材を紹介し、「特別の教科 道徳」の研修を深めながら日頃の授業研究に努めている。</li> <li>・平和集会では各学級でなかよし宣言を考えたり、人権標語を作成したりすることで、人権について考える機会をもち、思いやりの心を育む取組を行っている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の研修を深め、日頃の授業研究に努めていることについて、肯定的な回答をした教師は87.0%であった。児童の人権意識向上には個人意があり、学校のきまりやマナーを守れていない児童がいるため、個人に応じた支援、指導を継続していく必要がある。</li> <li>・「困ったことや悩みがあったときに話せる人がいる」と答えた児童は91.9%で、前期よりも上がっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での教育、協力も必要だと思う。</li> <li>・基里は温かい雰囲気だと思える。素直で元気があり、よく声が出る。今後も地位の特色を生かした体験活動を継続して豊かな心を育てていきたい。</li> </ul>
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答える児童90%以上 ●いじめの防止、事案への対応について、組織的な対応ができていると答える教師85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活での児童の様子や生活アンケートの回答から、児童理解に努め、児童の困り感や抱える問題等に応じて即時対応する。</li> <li>・いじめの認知・発知した場合、迅速かつ組織的に対応し、早急にいじめ対策委員会を開いて対応する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に実施した学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童は91.7%。後期も、日頃の学級での指導や児童の見守り、生活アンケート等で児童の困り感などに気づき、いじめの未然防止と早期発見に努める。</li> <li>・職員へのアンケートの結果、「組織的に対応している」と答えた職員は100%だった。生徒指導連絡会やいじめ対策委員会等で、児童の様子について職員間で定期的に情報共有や対策の検討を行うことができている。後期も、迅速かつ組織的に、いじめの早期発見・対応を行っている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期に実施した学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童は95.7%。前期から4ポイント向上した。普段の生活での見守りや生活アンケート等で児童の困り感や悩みが気づき、早期対応に努めた。</li> <li>・職員へのアンケートの結果、「組織的に対応している」と答えた職員は100%だった。児童の様子について、職員間で定期的に情報共有を密に行い、数に即しては、いじめ対策委員会を招き、早期発見と組織的な対応を行い、中長期的な経過観察と対応ができたと考える。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校が楽しい」と思う児童が95%以上もいることは、先生方の日頃の努力のたまもの喜ばしいことであると思う。</li> </ul>
●健康・体づくり	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組むなど、一人一人のよさが認められたりするような教育活動を仕組む。</li> <li>・年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにキャリアパスポートを活用する。家庭に持ち帰り、保護者からコメントを書いてももらうなど、保護者が知り、励ます機会を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「掃除がんばったねカード」を用いて、教員が全校の児童の頑張りを褒めて伝えるようにしたり、集金の集まり方や話の聞き方の良い点を伝えたりすることで、児童はよいところを認めてもらえる嬉しさを感じていた。</li> <li>・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は84.5%であった。将来の夢や目標だけでなく、近い目標を立てさせる機会を多く作り、より多くの児童が将来に向けて前向きな気持ちを持つようだった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒は14%であった。今後も全職員で機を逃さずに児童を褒める活動を継続していきたい。</li> <li>・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は78.8%で、前期よりも下がった。今後は、全校児童が将来の夢や目標をもつことができるよう、教師が励ましたり、6・8交流などの小中交流をより一層充実させたいし必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮に目標が分からなくなっても大丈夫と言ってあげたい。</li> <li>・5年生福刈り時の「夢をorraへ」の企画において、自分の夢を堂々と発信する姿に感心した。</li> </ul>
	●「運動習慣の改善や定着化」	●休み時間に屋外で運動する日が、1週間で3日以上の子供80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員会を中心に、外遊びを推奨するイベントを企画・実施してみんなで運動することの楽しさを味わうことができる場を設定する。</li> <li>・スポーツチャレンジの啓発、実施を行い児童の意欲喚起を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に実施したアンケートで、「休み時間に外で遊ぶ日が1週間で3日以上ある」と答えた児童は52.5%だった。前期は熱中症指数が「厳重警戒」や「危険」である日が多く、外遊びを制限せざるを得ない日が多かった。後期は、体育委員会が全校遊びを企画するなど、外遊びを推奨していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月には2週間のなわとび週間を設け、2月には体育委員会を中心に全校遊びを企画し、全校児童で「やまみちこみち」を実施したことでみんなで運動することの楽しさを改めて味わった。</li> <li>・休み時間に屋外で運動する日が1週間で3日以上の子供は64.9%であった。前期よりも数値は向上したが、目標を達成することができなかったため、今後も児童の体力向上のために外遊びの推奨を呼び掛ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園等の場所でボール遊びが出来ない所があると聞いたが、そうならばもう少し改善してほしい。</li> <li>・全校遊び、異学年交流を委員会が企画・運営したと聞いた。すばらしい取組だと思う。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい生活習慣の形成	○1日の睡眠時間が1～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健便りや校内の掲示物を通じて、睡眠の大切さを児童に呼びかける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に実施したアンケートで、1日の睡眠時間の目標を達成できた児童は90.5%だった。</li> <li>・保健便りや、睡眠の大切さについて児童と保護者に周知することができた。</li> <li>・12月に、保健室の掲示板で睡眠に関する掲示を行い、睡眠の大切さを児童に伝えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期に実施したアンケートで、1日の睡眠時間の目標を達成できた児童は92%で、前期よりも増えていた。来年度でも引き続き、保健便り等で睡眠の大切さを児童と保護者に周知していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と共に、保護者への啓発が一番大事であると考えている。</li> <li>・ゲームやSNS利用で、生活リズムが崩れている児童がいるようだ。家庭の協力も得ながら睡眠の大切さについて、これからも考えさせていってほしい。</li> </ul>
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や行事の精選を行うとともに、職員共有の連絡板を効果的に活用するなどICT利活用による校務の効率化を図る。</li> <li>・通常の施設時刻や退勤時刻を意識した働き方、積極的な年休等の取得を推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6月は時間外在校等の時間が平均30時間を超えていたため、職員間で「働き方」についての研修を行い、7月以降は平均25時間以下を達成している。</li> <li>・年次休暇の取得日数14日以上を達成している職員は少ないため、長期休業中を中心に積極的に取得するよう働きかけを行っている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7～1月の時間外在校等の時間は平均18時間で、「働き方改革」への職員の意識が高まってきたことがうかがえる。2月、3月は学校行事や年度末事務処理があるため、会議の精選やICT利活用による校務の効率化を図り、職員の働き方への意識を高く維持していく。</li> <li>・年次休暇の取得日数14日以上を達成している職員は増えてきた。今後も積極的な取得への働きかけを行っていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか難しい問題である。以前は水曜日を「ノ一残業デー」としていたが、今も取り組まれているのだろうか。</li> <li>・働き方改革については、先生方の忙しいお仕事の中、研修を通じて目標を達成させていることは本当に感心した。今後も改革に努めて有意義な時間作りが出来ればと思う。</li> </ul>
●特別支援教育の充実	○学習環境の整備	○インクルーシブ教育を意識した指導を行う教師90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UDの視点を生かした教室環境づくりを行い、集会を通して児童相互理解を深める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の場の各学級の設置率は90%以上達成することができた。「一人学び」「クールダウン」の場として活用できた。</li> <li>・特別支援教育に係る職員研修を3回実践した。教室前面の掲示をしないことや見やすい板書をするなど、全職員で共通理解して実践することができている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の場の各学級の設置率は90%以上達成することができ、一人学びの時は、個別学習の場へ自分から慣れも身に付いた。ただ、よりよい学習習慣が身に付いていない児童もいるので、活用の仕方、させ方を意識する必要がある。</li> <li>・集会を通して児童相互理解を深められた。友達への声かけや思いやりが十分ではない姿も見られたので、互いのよさを認める指導を継続していく必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に学習できる環境があるのはよいことである。</li> </ul>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
◎小中一貫教育の充実	◎教科「日本語」の実践充実	◎保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ◎保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間10回以上発信した学級率80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が研修を積み、年1回以上、教科「日本語」の授業を公開する。</li> <li>・学年通信や学級通信で、教科「日本語」に関する情報を学期に1回以上載せる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の調査で、「授業参観で、教科「日本語」の授業を公開した」と回答した職員は97.7%だった。</li> <li>・「学年・学級単位等で、教科「日本語」に関する情報を掲載している」と回答した職員は89.2%だった。</li> <li>・教科「日本語」に関する情報掲載や授業公開について、引き続き職員に呼びかけていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期の調査で、「授業参観で、教科「日本語」の授業を公開した」と回答した職員は82.6%だった。</li> <li>・「学年・学級単位等で、教科「日本語」に関する情報を掲載している」と回答した職員は82.6%だった。</li> <li>・教科「日本語」に関する情報掲載や授業公開について、引き続き職員に呼びかけていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥栖市ならではの教科「日本語」の授業に積極的に取り組む、授業参観で保護者へ公開できたところも評価できる。</li> </ul>
○地域と共にある学校の推進	○コミュニティ・スクールの活用	○アンケートにおいて「コミュニティ・スクールとして推進していることを知っている」と回答した保護者80%以上、「学校生活を地域の方に支えてもらっている」と回答した児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携して、各学年年に1回以上、地域交流行事を設定していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の学校評価アンケートにおいて「コミュニティ・スクールとして推進していることを知っている」と回答した保護者は84.3%、「学校生活を地域の方に支えてもらっている」と回答した児童は84.6%であった。学校便りに「コミュニティ・スクールについて知らせたり、「基里っ子集会」で学校運営協議会のメンバーを紹介したりしているが、今後もコミュニティ・スクールについて保護者への周知・理解を検討していく必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期の学校評価アンケートにおいて「コミュニティ・スクールとして推進していることを知っている」と回答した保護者は72.8%、「学校生活を地域の方に支えてもらっている」と回答した児童は87.6%であった。どちらも周知・理解が高まってきているので、今後も積極的にコミュニティ・スクールの啓発に努めていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基里小は地域との取組に積極的であり、地域の方々の協力も多い。今後も続けていってほしい。</li> <li>・以前より地域力を高く感じてもらっているのは、とてもすばらしいと思う。学校との連携も更に強めていければと思う。</li> </ul>

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善」に教員全員で取り組んできたことで、教科「日本語」を中心に、どの教科でも問いを軸とした授業実践が広がってきている。次年度は、児童が自分の問いへの振り返りや新たな問いの設定ができるような手立てを採っていきたい。</li> <li>・「教育相談週間」「なかよしアンケート」で児童の困り感を捉え、「なかよし宣言」「人権標語」など思いやりの心を育む取組を行うことで心の教育の充実を図ることができた。今後もみんなが気持ちよく過ごすことのできる学校づくりに努める。</li> <li>・中学校教職員が小学校に乗り入れ授業をするなど小中一貫教育の一層の充実を図ることができた。今後も小中学校の教職員が共に学ぶ場を設けると共に、「5・7交流」「6・8交流」「よろしく先輩」「挨拶運動」など、児童生徒の交流活動も継続、充実させていきたい。</li> </ul>
----------------	--